

告白

中野
劇団

告白

作・中野 守 (中野劇団)

登場人物

朝日 ♂

雨宮 ♀

夏の高校。夕方。

吹奏楽部や運動部の部活の音の中。

男子学生朝日と、同級生の女子学生雨宮。

朝日 ごめん。急に呼び出して。

雨宮 ……。

朝日 えっと……。

雨宮 ……。

朝日 ……俺、ずっと雨宮さんのことが好きで。……こんなこと急に言っ

て、そりゃびっくりするよね。それで、……よかったら俺と付き合っ
てほしいんだけど。……どうかな？

雨宮、俯く。

朝日 どうしたの？

雨宮 ……。

朝日 雨宮さん？

雨宮 ごめんなさい……。

朝日 そっか。ごめん。俺なんかが、告白とか。

雨宮 違うの違うそうじゃないの！

朝日 え、じゃあ。

雨宮 何なのこれ!? 何で抜け出せないの？

朝日 ……雨宮さん？

雨宮 ……。

朝日

何？ 抜け出すって。

雨宮

ホントに覚えてないの？

朝日

何が？

雨宮

……朝日君、私に何回も告白してくれてるの。

朝日

……え？

雨宮

……。

朝日

俺が？

雨宮

……。

朝日

俺、雨宮さんに気持ち伝えたことないよね？

雨宮

……。

朝日

え？

雨宮

……。

朝日

告白した？ いつ？ 何処で？

雨宮

……。

朝日

……。 いやいや。俺、雨宮さんに気持ち伝えたの初めてだけど。

雨宮 よく毎回、そんな風に驚けるね。

朝日 どういうこと？

雨宮 ……私ね、……同じ時間を何回も繰り返してるの。

朝日 ……え？

雨宮 ……。

朝日 何それ？

雨宮 もうずっと抜け出せない。同じ時間をずっと繰り返してることどんな風に説明しても、朝日くんの告白をどんな風に断っても、一緒なの。告白を断ったら、時間が戻るの。

朝日 え？ 時間が戻るって、何？

雨宮 このやりとりを何回も繰り返してるの。きつく断っても、優しく断っても、どうしたってまた時間が戻ってしまうの。

朝日 え？

雨宮 で、朝日くんは告白したこと忘れてしまって、また私に告白するの。ずっとそれを繰り返してるの。ずっと。ずっと繰り返してるの。

朝日

これって――

雨宮

――ふざけてないです。

朝日

誰かに――

雨宮

――やらされてもない。

朝日

繰り返して――

雨宮

――何十回か数えてない。

朝日

……。そのたびに俺の――

雨宮

――記憶はリセットされてる。

朝日

ていうか、俺、断られるんだ。

雨宮

今回はまだ断ってない。

朝日

でも、駄目って言われてるのと同じだよね。

雨宮

でも、断ったら時間戻るから。今まだ戻ってないから。

朝日

でも断られるんだよね？

雨宮

……。

朝日

繰り返しから、抜け出せないの？

雨宮 ……うん。

朝日 ……それって、俺が告白して雨宮さんがOKしたらどうなるの？

間。

雨宮 わからない。

朝日 わからないって？

雨宮 OKしたことないから。

朝日 え、何で？

雨宮 ……何で？

朝日 ……繰り返しから抜け出せるかもしれないんじゃない？

雨宮 え？

朝日 試してみたら？

雨宮 ……試すって？

朝日 だって出られないんだよね？ 繰り返しから。だったら、取り敢

え、繰り返してから抜け出すことだけ考えてさ……。

……。

取り敢えずOK、してみたら……。

取り敢えず？

繰り返してから抜け出せるかもしれないじゃない？

……でも、違うから。

うん、違うのはわかったからさ。繰り返してから抜け出すためだけ

にさ、嘘でいいから。

でもOKじゃないんだよ？

うん。それはわかったからさ。これ断ってない？

今回はまだ断ってない。断ったら時間戻るから。今まだ戻ってな

いから。

だから、取り敢えずOKして、抜け出してすぐ断ったらいいから。

わかる？

……数字で言うところの、虚数みたいになってこと？

雨宮

朝日

雨宮

朝日

雨宮

朝日

雨宮

朝日

雨宮

朝日

雨宮

朝日

そんなに僕とはあり得ない？ 僕が嫌い？

雨宮

違う。朝日くんが嫌いなんじゃない！ 朝日くんはいい人だし、優しいし。私のこと本気で思ってくれてるのも、伝わってるし、それは、何回も繰り返してるからわかってる。

朝日

だったら取り敢えず〇け——

雨宮

ごめんなさい。

朝日

何で？ 何回も戻っちゃってるんでしょ？ そんなに疲弊するくらい繰り返してるんでしょ？

雨宮

疲弊することにも疲弊しちゃって、もう、疲弊もできないの。

朝日

ん？ だから、OKして繰り返しから抜け出して、それでフツたらしいじゃない。

雨宮

そんな朝日君が傷つくじゃない！ 私、朝日くんのこと傷つけたくないの！

朝日

……ありがとう。でも、俺はいいし。

雨宮

よくない！ 朝日君には、私なんかじゃ駄目なの！ もっといい

人がいる。

朝日
でもそれじゃ、抜け出せないんだよ？　じゃあ断らずにずっと引き延ばしたら……。

雨宮
そんな朝日君をずっと苦しめ続けるだけだから！

朝日
……。

雨宮
ごめんなさい。……あ、これは断ってるわけじゃなくて、苦しめてることへの謝罪で。

朝日
そうなんだ。

雨宮
……。

朝日
気持ちをなくして、OKして、すぐ断ったらいいから。繰り返してから抜け出すために、心を殺して、口先だけでOKするんだよ。

雨宮
朝日君、言ってる虚しくないの？

朝日
……いいんだよ。

雨宮
朝日君ってホントに優しいよね。絶対何処かに見てくれてる人いるから。

朝日 ありがとう。

雨宮 何処かに。

朝日 うん。

雨宮 ……わかった。じゃあ、心を殺して、口先だけで、わかった。

朝日 うん。…じゃあ、告白するよ？

雨宮 うん。

朝日 よかったら、俺と付き合ってくれないかな。

雨宮 ごめ……。

朝日 ……。

雨宮 ……いいよ。

朝日 うん。ありがとう。ごめんね。無理矢理言わせて——

——もうずっと抜け出せない。同じ時間をずっと繰り返してることどんな風に説明しても、朝日くんの告白をどんな風に断っても、一緒なの。告白を断ったら、時間が戻るの。

朝日 え？

雨宮

このやりとりを何回も繰り返してるの。きつく断ってもダメ。優しく断ってもダメ。どうしたってまた時間が戻ってしまうの。

朝日

これかあ。

雨宮

で、朝日くんは信じない。信じてないけど、私の言うことを尊重して、話を聞いてくれる。

朝日

いやいやいや。雨宮さん？

雨宮

何？

朝日

今、俺時間繰り返したんだけど。

雨宮

え？

朝日

雨宮さんが俺の告白OKして、そしたら、俺の記憶が残ったまま、時間が巻き戻ったの。

雨宮

嘘だよ。

朝日

ホントなんだよ。

雨宮

ホントに繰り返してるの？

朝日

うん。

雨宮 じゃあ朝日君も一緒に繰り返してるってこと？

朝日 うん。

雨宮 ホントに？

朝日 うん。

雨宮 でも嘘だ。……私がOKしたなんて。嘘だ。

朝日 そうだよね。……ごめんなさい。

雨宮 ……ごめんなさい。

終わり。